

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2024年6月1日 249号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

レダの新しい挑戦



●現在、ナツメヤシの幼木を20本育成しています。5月14日



(画像:Pixabay)

ナツメヤシは将来このように実を着けます。



●ナツメヤシ2年目幼木と水落さん。5月14日



(画像:Pixabay)

●乾燥した果実(デーツ)：そのまま食用に。



●1年目は葉だけが出ます。5月14日

レダでナツメヤシの栽培に挑む

【レダ在住チャポボラ四期生、黒田君より】

今回は、レダの経済を自立させ、発展させるための新しい挑戦を皆さんにお伝えしたいと思えます。それはナツメヤシの栽培です。

ナツメヤシの実(デーツ)は主に北アフリカや中東において、主要な食物の一つであり、産地では実をドライフルーツにして保存します。土産品としても販売され、観光客にも人気があります。

デーツは食品として栄養価が高く、特に食物繊維が豊富で、カルシウムやマグネシウムなども多く含まれており、近年では、貧血の予防やストレス対策にも効果があるとされています。

レダでは2年前にナツメヤシに着目し、中東でその種を購入して、育苗ポットで育ててきました。今年には農場の付近に20本ほどを定植しました。

レダでナツメヤシの栽培に積極的に取り組んでいる水落さんにインタビューしました。

Q…なぜレダでナツメヤシの生産を始めようと思ったのですか？

A…私は今まで10年間レダで歩んでくる中で、養殖、農業、養豚などいづれも、手間と管理が大変であるのを見てきました。それで私は、木のように一旦育ってしまえばその後はあまり手のかからない作物が良いのではないかと考えていたのです。そんな中、3年前に私がカサドという地域に行った時、その船着き場に、レダのロウヤシとは違うヤシが実を着けているのを見たのです。

それをきっかけにナツメヤシを育てるのが良いのではないかと考え始めました。当時パラグアイでは、ナツメヤシの苗木や種を販売している所がなかったのですが、日本への帰国途上、ドバイで乗換をしたとき、ナツメヤシの実を購入しました。その中の種をレダで播き、生えた苗を育て、植え、現在に至っています。

Q…レダにとって、ナツメヤシはどのようなメリットがありますか？

A…まず、木の育成に大きな手間がかからず、管理が楽だと言えます。(次面につづく)



花盛りの野草
イボメア・ルーベンス



上空より望んだレダ基地は輝いていました。4月25日



●すくすくと、島田家の子どもたち。5月3日



●♪デュエット！4月21日



●島田家の畑：さながら農業試験場。4月24日



●土地本来の樹木の苗を育てています。4月13日



●ケブラッチョの種子



●隣人からヒヨコをいただきました。4月17日



●調理した人も嬉しくなる笑顔。4月21日

ナツメヤシ（一面よりつづ）種を播いてから、ある程度の大きさに育つまでは管理が必要ですが、それ以降は自然に育つてくれます。またナツメヤシの実はドライフルーツや料理の調味料など加工品も幅広く、輸送も比較的容易で、繊細なものでもないの、取り扱い面においても非常にメリツトがあると考えています。またナツメヤシの木は、レダの気候や土壌などの環境に親和性があるとも考えています。原産地である中東は乾季が長く、土壌に栄養があまり多くなくても育ちます。こうしたことからレダでもよく育つと考えたのです。

Q…今後どのようにナツメヤシを展開していく、レダの経済を発展させていきたいと考えていますか？



●レダ史上初：餡入り蒸し饅頭。5月10日

A…始めたばかりなので何とも言えませんが、将来的に2000本は植えたいと考えています。そのために来年は100本以上植え、年々増やしていきたいと考えています。アメリカにおけるデータの価格を調べてみたのですが、成木が2000本にもなれば相当な収入を得られると考えています。（インタビュアーここまで）

レダのナツメヤシ栽培は始めてから2年ほどしか経っていません。そのため生産面や販売面などに未知数の部分が多いのですが、今回水落さんにインタビューした内容や、私自身が調べていく中で、このナツメヤシはレダにとって重要なものになると感じています。水産・養豚・農業に続く新たな事業になることを願うばかりです。

レダで働く人々



水落勝(みずおちまさる)さんは、この10年間、レダの木工作业を一手に引き受けてきました。近隣の村々の学校にも、机、椅子、書架など、水落さんの手による木工品がたくさんあります。その作品の特徴は、堅牢性と機能美。また、釣り人としても寸暇を惜しんで実績を積み上げ、今やレダの若者たちの師匠役をも務めるほど。そして今新たに、養蜂にも取り組み始めました。

郷に入っては郷に従え

大工として日本で約35年、レダに導かれてから10年、ほとんど休むことなく活躍している水落さん。レダの大工として最近取り組んできたのは、シニアハウス(元第一旧館)を解体し、これから長期で滞在する人たちのための個室としてリフォームすることです。この六月には夫婦で滞在する方々が増えるため、その時までには完成する予定だそうです。しかし10年間レダで歩みながら、今もなお苦心していることの一つが、思うように使える木工機械がないこと、また第二は、使いたい材料が簡単に手に入らないこと。同様のことは様々な面に言えるそうです。また木材が日本の木材とは違い、とても硬く、材質も違っていて苦労しているそうです。しかし、無いで古いものを解体して使い回



木工場で働く水落さん。目と腕に寸分の狂いもありません。レダに入ると、思っていたよりも、日本の木材とは違い、とても硬く、材質も違っていて苦労しているそうです。しかし、無いで古いものを解体して使い回

したり、材料を取っておいったりするなど、工夫を凝らしながら作業環境を整備してこられました。日本で35年の職人ですが、ここで大切なことは日本の考え方や建築にこだわらないということでした。もしこだわってしまったらレダではやって行けないからだ。郷に入っては郷に従え」ということわざのように、その土地に入ったら自分の価値観と異



諸道具の調整もお任せください。



ジャテイ単箱1号製作中。

ランやいろんな建物を作ってみたいとのこと。自分が作れなくても、次の世代の方にも作ってほしいと、おっしゃっていました。また水落さんは大工と釣りのほかに、最近では養蜂もやるようになりました。そのきっかけは、レダの環境や、予算を見た時に、一番よくレダに合っている、手取り早いのは養蜂ではないかと思ったというのです。また本格的にやろうと思ったのは、最近ジャテイ(Jatay)という針なしバチの一種と出会い、

その蜂蜜が目や身体に良いということを知って関心を持つようになり、昨年の8月頃から養蜂に力を入



ジャテイ単箱3号を森に設置しました。



ジャテイは体長約5mmです。女性にとっても扱いやすいことだそうです。難点は、一度に多量の蜜を採取できないことですが、



ドラドはすでに40匹以上釣りました。レダの経済的自立は一つの大きなテーマです。ここに住んでいる以上はレダの発展、自立を考えたこと以外にも多くのことに心を寄せ、レダの発展のためにこれからは歩んでいきます。」(取材・木塚ふみ)

その分、蜂蜜の品質が高く、高価であるというので気に入っているそうです。またジャテイの単箱を今12個作っており、そのうち3個を設置しています。タイミングを見て残りを設置し、今後さらに増やしていく予定です。最後に水落さんが決意を込めて語られました。「レダの経済的自立は一つの大きなテーマです。ここに住んでいる以上はレダの発展、自立を考えたこと以外にも多くのことに心を寄せ、レダの発展のためにこれからは歩んでいきます。」(取材・木塚ふみ)

レダの電気屋さん



第11回

スターリンクがレダに!

レダには、インターネット環境があるのですが、そこには少し課題がありました。それはモバイル回線を使用した通信を使用していたからです。

モバイル回線の課金は従量制なので、ギガをたくさん使うほど通信料金が増えていくという課題があり、自由にインターネットを使用できるという状況ではありませんでした。そこで待っていたのが、「スターリンク」というインターネットサービスです。

スターリンクは人工衛星を使用しているので、技術的には地球上のどこでも使えます。日本では既に、2022年からサービスが始まっていますが、パラグアイでもようやく、サービスが始まりました。もちろん直ぐに利用申し込みをしていただきました。

レダで使用するということで、少しトラブルもありましたが、結果としてとても快適なインターネット環境を実現することができました。今は研修所のみで使用できる状況ですが、今後、Wi-Fiルーター等を用いて通信エリアを拡大し、レダの情報発信力強化に貢献していこうと思います!

「山崎@レダ」というライングループで細かな情報を発信しています。(山崎茂章)

写真上..研修所2階テラスに設置されたスターリンク用アンテナ。写真下..日本のブロードバンドと比べても遜色のない通信速度です。



パクー稚魚放流プロジェクト



してきました。

稚魚の放流は、言うまでもなく、それ自体で私たちにとって直接的な経済的メリットになることはありません。数年後に川で大きく育ったパクーを収穫するのは、不特定の人々です。この点、養殖プロジェクトとは趣旨が異なるものです。

今季3万匹を順次放流

当会では、今季約3万匹の稚魚を放流することを計画しています。まずはじめに、現地の「環境の日」である6月5日、アルト・パラグアイ州バイア・ネグラ市において、市と国立アスンシオン大学と当会との共催により、「稚魚放流式」を実施します。住民たちは、

これまで獲得物でしかなかった魚を自らの手で川に放すことを体験します。「環境を守ることは暮らしを守ること」という趣旨です。その後、レダ基地を中心とした地域でも、稚魚を順次放流していきます。

稚魚放流プロジェクトにご支援を!

放流プロジェクトの実行と未来への継続のために、皆様のご支援をお願いいたします。支援金は下記の口座あてお願いいたします。今季の募集期間は7月31日までです。お問い合わせ等は下記の事務局まで。



2022年5月13日 バイア・ネグラ市における放流式典



2022年5月22日 レダにおける稚魚放流

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

e-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: https://asd-nsa.com

Facebook: https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

レダ・プロジェクト紹介用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



https://asd-nsa.com/sk/

レダのショート動画

- 1.レダにおける稚魚放流. 2022年5月27日
- 2.稚魚の成長確認... 2024年4月17日
- 3.パクー養殖池にて餌やり... 4月26日
- 4.パロサントを燻してみた... 5月5日

